

陸連時報 三

2016
平成28年

10 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2016年度主要競技会日程	222
強化関連情報	223
第16回U20世界陸上競技選手権大会報告(大橋祐二)	
ホクレン・ディスタンスチャレンジ2016大会報告(強化委員会幹事 吉川三男)	227
“日清食品カップ”第32回全国小学生陸上競技交流大会報告(普及育成委員会 熊原誠一)	228
アスリートの貧血対処7か条	230
安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト	231
陸上競技者および審判・役員の紫外線カットグラス着用のすすめ(医事委員会副委員長 向井直樹)	232
2016数字で見る陸上競技Vol.2 都道府県公認審判員数	233
大会観戦ガイド	234
陸協NEWS	236
事務局からのお知らせ	238

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2016年度 主要競技会日程

	主催競技会			主要競技会			国際競技会		
	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所
4月	17(日)	100 日本選手権50km競歩	石川	2(土)	★ 25 金栗記念選抜中・長距離	県民総合(熊本)			
	17(日)	18 長野マラソン	長野	23(土)~24(日)	★ 70 出雲陸上	浜山(島根)			
				24(日)	★ GP ① 兵庫リレーカーニバル	ユニバー記念(兵庫)			
				29(金・祝)	★ GP ② 織田記念陸上	広域公園(広島)			
			30(土)~5/1(日)	★ GP ③ 日本選抜陸上和歌山	紀三井寺(和歌山)				
5月				3(火・祝)	★ GP ④ 静岡国際陸上	エコパ(静岡)			
				5(木・祝)	★ 16 水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)			
	8(日)	ゴールデングランプリ	等々力(神奈川)	7(土)	★ 27 ゴールデンゲームズinのべおか	延岡(宮崎)	7(土)~8(日)	世界競歩チーム選手権	ローマ(イタリア)
				8(日)	★ 26 仙台国際ハーフマラソン	宮城			
			15(日)	★ 6 ぎふ清流ハーフマラソン	岐阜				
6月	11(土)~12(日)	62 全日本中学通信陸上	各地	10(金)~12(日)	○ '16 日本学生個人	平塚(神奈川)	3(金)~6(日)	17 アジアジュニア陸上競技選手権	ホーチミン(ベトナム)
	11(土)~12(日)	100 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)						
	24(金)~26(日)	32 日本ジュニア選手権混成	長野市営(長野)	26(日)	★ 31 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道			
7月				10(日)	★ 29 南部記念陸上	厚別(北海道)	3(日)	3 日中韓3カ国交流陸上	金泉(韓国)
	29(金)~8/2(火)	69 全国高校陸上	岡山(岡山)	23(土)	★ 56 実業団・学生対抗	平塚(神奈川)	19(火)~24(日)	U20世界陸上競技選手権	ビトゴシチ(ポーランド)
8月	11(木)~14(日)	51 全国定通制高校陸上	駒沢(東京)	7(日)	★ 41 蔵王坊平クロスカントリー	上山(山形)	12(金)~21(日)	31 オリンピック競技大会	リオデジャネイロ(ブラジル)
	20(土)	32 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)						
	21(日)~24(水)	43 全国中学陸上	松本平(長野)	28(日)	★ '16 北海道マラソン	北海道	23(火)~29(日)	24 日韓中ジュニア交流競技会	寧波(中国)
	24(水)~25(木)	51 全国高専陸上	瑞穂(愛知)						
	27(土)~28(日)	4 全国高校陸上選抜	ヤンマーフィールド長居(大阪)						
9月				2(金)~4(日)	○ 85 日本学生対校	熊谷(埼玉)	13(火)	'16 デカネーション	マルセイユ(フランス)
				17(土)~19(日)	★ 37 全日本マスターズ	アホビダスタジアム(新潟)			
			23(金)~25(日)	★ 64 全日本実業団	ヤンマースタジアム長居(大阪)				
10月	7(金)~11(火)	71 国民体育大会	北上(岩手)	10(月・祝)	○ 28 出雲全日本大学選抜駅伝	島根			
	21(金)~23(日)	32 日本ジュニア選手権	瑞穂(愛知)	23(日)	★ 55 全日本50km競歩高島	山形			
	21(金)~23(日)	10 日本ユース選手権	瑞穂(愛知)	23(日)	★ 13 田島記念陸上	維新百年記念(山口)			
	28(金)~30(日)	100 日本選手権リレー	日産スタジアム(神奈川)	30(日)	★ 6 大阪マラソン	大阪			
	28(金)~30(日)	47 ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)	30(日)	○ 34 全日本大学女子駅伝	宮城	26(木)~11/6(日)	22 世界マスターズ陸上競技選手権	パース(オーストラリア)
11月	13(日)	2 さいたま国際マラソン	埼玉	6(日)	○ 48 全日本大学駅伝	愛知・三重			
				13(日)	★ 32 東日本女子駅伝	福島			
				20(日)	★ 6 神戸マラソン	兵庫			
				27(日)	★ 36 全日本実業団女子駅伝	宮城			
12月	4(日)	70 福岡国際マラソン	福岡	11(日)	★ 16 長崎陸協競歩	県民総合(長崎)	4(日)*予定	IAU100km世界選手権	ロスアルカサレス(スペイン)
	11(日)	19 小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)	11(日)	★ 28 全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)			
	18(日)	24 全国中学駅伝	滋賀	18(日)	★ 47 防府読売マラソン	山口			
	25(日)	67 28全国高校駅伝	京都	23(金・祝)	★ 35 山陽女子ロードレース	岡山			
2017 1月	15(日)	35 都道府県対抗女子駅伝	京都	1(日・祝)	65 元旦競歩	東京			
	22(日)	22 都道府県対抗男子駅伝	広島	1(日・祝)	61 全日本実業団駅伝	群馬			
	29(日)	36 大阪国際女子マラソン	大阪	29(日)	'17 大阪ハーフマラソン	大阪			
2月	4(土)~5(日)	'17 日本ジュニア室内大阪	大阪城ホール(大阪)	5(日)	66 別大マラソン	大分			
	19(日)	100 日本選手権20km競歩	兵庫	5(日)	71 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川			
	19(日)	2 全国中学生クロスカントリー	昭和の森(千葉)	12(日)	57 唐津10マイル	佐賀			
	25(土)	100 日本選手権クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	12(日)	45 実業団ハーフマラソン	山口			
	26(日)	'17 東京マラソン	東京	19(日)	51 青梅マラソン	東京			
				19(日)	61 熊日30キロロードレース	熊本			
3月	5(日)	72 びわ湖毎日マラソン	滋賀	19(日)	'17 京都マラソン	京都			
	12(日)	'17 名古屋ウイメンズマラソン	愛知	5(日)	○ 20 日本学生ハーフマラソン	東京			
	19(日)	41 全日本競歩能美	石川	19(日)	○ 11 日本学生20km競歩	石川	19(日)	アジア陸上競技選手権・20km競歩	石川
				19(日)	38 まつえレディースハーフマラソン	島根			
			19(日)	20 日本学生女子ハーフマラソン	島根	26(日)	42 世界クロスカントリー選手権大会	カンバラ(ウガンダ)	

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

第16回U20世界陸上競技選手権大会報告

大橋 祐二

1. はじめに

第16回U20世界陸上競技選手権大会（以下、U20世界選手権）は、2016年7月19日から7月24日まで Zawisza Bydgoszcz Stadium（ポーランド・ビドゴシチ）で開催された（本大会から大会名称が「世界ジュニア選手権」から「U20世界選手権」へ変更された）。日本は、男子4×100mRで2位（U20アジアタイ記録）、男子110mHで古谷拓夢（早稲田大学）が3位（U20アジア新記録）、その他にも入賞14となり、メダルテーブルでは第26位に甘んじたものの（表1）、プレイングテーブル（1位から8位を得点化した国別対抗ポイント）は第10位となり（表2）、入賞数に限ってみれば過去10大会で2番目に多い結果となった（表3）。

本大会は、当初ロシア・カザンでの開催が予定されていた。しかし、ドーピング問題が明るみに出ると、国際陸上競技連盟（以下、IAAF）はその代替地として、世界ユース選手権を1回、世界ジュニア選手権を1回、世界クロスカントリー選手権を2回と、世界大会を数多く誘致しているポーランド・ビドゴシチを選出した。

日本選手団は7月13日に成田に集合し、翌14日に約12時間のフライトでドイツ・フランクフルトへ移動、そこで一泊し、7月15日に約1時間半のフライトでビドゴシチへ到着した。大会運営側は国際大会に慣れていることもあり、空港からの輸送など、選手のストレ

スとなるようなトラブルには見舞われなかった。

2. 選手選考

選手選考会議は、全国高等学校総合体育大会ブロック地区予選が全ての地区で終了した6月21日に行われた。事前に強化育成部が設定した入賞が期待される記録（過去の入賞記録から強化育成部が作成）とIAAFが公表している参加標準記録、更に2020東京オリンピックへの繋がりを意識した選考ポリシーに照らし合わせ選考を行った。選考においては、今年度の指定された選考競技会での記録を重視した。すなわち、決められた大会で高いパフォーマンスを発揮した選手を優先して選出したことになる。

3. 現地の環境

1) 生活環境

開催地ビドゴシチは北緯53度と緯度では北海道よりも北に位置しており、気温は日中25℃近くまで上がるものの湿度が50%以下と低く、非常に過ごしやすい気候であった。競技は午前・午後に分けて行われ、午前の部は10時から13時、午後の部は18時から21時という時間帯であった。そのため、日が落ちる19時以降のレースでは20℃を切る日も多く、長距離には良いコンディションであったものの、その他の種目にはやや肌寒く感じ必ずしも良いとは言えないコンディションであった。

表1 メダルテーブル（上位10ヶ国+日本）

順位	国名	金	銀	銅	合計
1	米国	11	6	4	21
2	ケニア	5	2	2	9
3	エチオピア	4	2	4	10
4	キューバ	3	2	0	5
5	ジャマイカ	2	3	3	8
6	ポーランド	2	2	0	4
7	ドイツ	2	1	3	6
8	中国	2	1	0	3
9	カタール	2	0	1	3
10	バーレーン	1	2	1	4
26	日本	0	1	1	2

表2 プレイングテーブル（上位10ヶ国）

順位	国名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	合計
1	米国	11	6	4	2	8	1	5	4	213
2	ケニア	5	2	2	4	2	4	1	0	108
3	エチオピア	4	2	4	4	2	0	0	3	101
4	ドイツ	2	1	3	3	2	4	1	2	80
5	ジャマイカ	2	3	3	2	0	2	0	0	71
6	ポーランド	2	2	0	1	2	4	0	3	58
7	中国	2	1	0	1	2	4	2	1	53
8	キューバ	3	2	0	1	1	1	0	0	50
9	オーストラリア	0	3	1	1	2	1	3	0	49
10	フランス	1	1	3	1	0	0	1	2	42
10	日本	0	1	1	1	1	3	2	7	42

表3 U20世界選手権における日本選手入賞数の変遷

	開催日	開催都市	金	銀	銅	入賞者
第7回	1998年7月28日～8月2日	フランス・アヌシー	0	0	1	9
第8回	2000年10月17日～22日	チリ・サンティアゴ	0	0	3	9
第9回	2002年7月16日～21日	ジャマイカ・キングストン	1	0	1	10
第10回	2004年7月13日～18日	イタリア・グロッセート	0	0	4	14
第11回	2006年8月15日～20日	中国・北京	0	0	2	8
第12回	2008年7月8日～13日	ポーランド・ビドゴシチ	0	0	0	6
第13回	2010年7月19日～25日	カナダ・モンクトン	1	2	3	16
第14回	2012年7月10日～15日	スペイン・バルセロナ	0	1	1	9
第15回	2014年7月22日～27日	アメリカ・ユージーン	1	3	2	21
第16回	2016年7月19日～24日	ポーランド・ビドゴシチ	0	1	1	16

宿舎は、スタジアムからバスで約10分のホテルを使用した。日本の他には、ドイツ、ブラジル、カタールなどが宿泊していた。ホテルでは英語が通じ、過去の国際大会でも選手村となっていたため、食事の時間変更やミーティングルームの確保など、臨機応変に対応してくれた。また、Wi-Fi環境や徒歩圏内にコンビニエンスストアがあることなどを考慮すると、日本とそれほど大きな環境の変化はなく、選手のストレスは少なかったといえよう。食事は、三食ともにビュッフェ形式であったが、毎食ほぼ同じメニューであったため、長期の滞在で飽きてしまう選手もいたようであった。

スタジアム行きのバスは、1時間に1本とやや少なかったが、大会関係者は市内を縦横無尽に移動できるトラムを自由に利用できたため、バスの時間に合わせられない場合にはコーチが帯同するという条件でトラムでの移動を認めた。

2) 競技環境

メインスタジアムおよびサブトラックのサーフェイスは、近年の日本の競技場では見られないチップ式のものであった。特に、サブトラックのチップは剥がれ

やすく反発も少ないため、選手の感覚はメインスタジアムと大きく異なるようであった。

競技運営においては、昨年の世界ユース選手権からの試みで、3000m障害の水豪あたりのゲートから、ユニフォーム、スパイクを着用した状態でスタート地点までジョギングをしての入場が継続されていた(トラック種目に限る)。また、フィールド種目の水平距離を競う種目(走り幅跳び・三段跳び・砲丸投げ・円盤投げ・やり投げ・ハンマー投げ)の決勝は、ベスト8を決める3試技の後、上位6選手のみが1試技を行うという特殊な形式で行われた。通常の試技形式で後半の試技に力を発揮する選手には厳しいルールであった。

4. 戦力分析

1) 自己記録達成率

全選手の結果を自己記録(以下、PB)に対する達成率でみると、男子は97.9±2.1%、女子は96.8±4.2%であった。また、本大会でPBを更新した選手は、男子7名、女子4名(国内と規格が異なる種目も対象とする)であった。一方、PBを出しながら決勝に進出

表4 U20世界陸上競技選手権大会(2016/ビドゴシチ)日本選手団 競技結果

No.	競技種目	氏名	所属	自己ベスト	達成率(%)	日付	予選
1	100m	竹田 一平	中央大学	10.27	97.3	7/19	10.61(-0.4) 1組3着 準決勝進出
2	100m	大嶋 健太	日本大学	10.29	98.7	7/19	10.44(-0.6) 6組2着 準決勝進出
3	200m	山下 潤	筑波大学	20.91	101.2	7/21	20.89(-1.2) 4組3着 準決勝進出 PB
4	200m	大塚 渉	順天堂大学	20.87	97.5	7/21	21.41(+1.3) 1組4着 準決勝進出
5	400m	松清 和希	福岡大学	46.74	100.1	7/20	46.78 2組2着 準決勝進出
6	400m	北谷 直輝	神戸市立科学技術高校	46.89	101.0	7/20	47.32 3組3着 準決勝進出
7	1500m	阪口 竜平	東海大学	3:43.88	97.7	7/19	3:49.21 3組9着 落選
8	5000m	遠藤 日向	石川高校	13:48.13	97.6		
9	5000m	阿部 弘輝	明治大学	13:57.15	96.5		
10	10000m	關 颯人	東海大学	28:48.63	99.5		
11	10000m	鬼塚 翔太	東海大学	28:55.26	97.7		
12	110mH	古谷 拓夢	早稲田大学	13.73	-	7/20	13.40(+0.6) 6組1着 準決勝進出 PB
13	110mH	平松 バブデンバ	日本大学	13.94	-	7/20	13.59(風不明) 7組2着 準決勝進出 PB
14	400mH	山本 竜大	日本大学	50.96	100.2	7/21	51.51 5組3着 準決勝進出
15	400mH	渡部 佳朗	城西大学	49.96	98.1	7/21	51.10 6組1着 準決勝進出
16	3000mSC	荻野 太成	神奈川大学	8:44.39	98.7	7/21	8:51.50 1組5着 決勝進出
17	10000mW	川野 将虎	御殿場南高校	41.04	98.5		
18	10000mW	山本 龍太郎	富山商業高校	41.22	95.7		
19	走高跳	平松 祐司	筑波大学	2m28	96.9	7/20	2m16 B組1位 決勝進出
20	走高跳	藤田 深太郎	立命館大学	2m16	96.8	7/20	2m09 A組10位 落選
21	棒高跳	江島 雅紀	在命高校	5m42	98.7	7/21	5m20 B組3位 決勝進出
22	棒高跳	大久保 圭介	関西学院大学	5m20	98.1	7/21	5m10 A組11位 落選
23	走幅跳	足達 一馬	関西学院大学	7m76	96.8	7/19	7m51(-1.2) A組7位 落選
24	走幅跳	橋岡 優輝	八王子高校	7m70	98.6	7/19	7m59(+0.3) B組5位 決勝進出
25	三段跳	原田 睦希	立命館大学	16m16	97.2	7/20	15m70(+1.4) B組9位 落選
26	砲丸投	幸長 慎一	四国大学	18m41	96.3	7/19	17m73 A組9位 落選
27	円盤投	安藤 夢	東海大学	56m65	103.3	7/23	57m98 B組6位 決勝進出 PB
28	やり投	佐道 隼矢	東海大学	58m80	95.1	7/23	55m93 A組10位 落選
29	やり投	池川 博史	滝川第二高校	77m97	93.2	7/22	72m65 B組7位 決勝進出
-	4x100mR	竹田 一平/山下 潤/大塚 渉/大嶋 健太		70m03	94.3	7/22	66m01 A組16位 落選
-	4x400mR	松清 和希/北谷 直輝/渡部 佳朗/小淵 瑞樹				7/23	39.53 3組1着 決勝進出
30	400m	石塚 晴子	東大阪大学	53.22	96.4	7/19	3:07.59 1組2着 決勝進出
31	400mH	田中 希実	西脇工業高校	56.75	96.9	7/20	55.20 4組4着 落選
32	3000m	樺沢 和佳奈	常磐高校	9:08.15	101.3		58.66 1組3着 準決勝進出
33	3000m	加世田 梨花	成田高校	9:06.47	99.3		
34	5000m	矢田 みくに	ルーテル学院高校	15:44.58	100.5		
35	5000m	久保 有梨	中央大学	15:45.04	99.5		
36	100mH	田中 佑美	関西大学第一高校	13.51	98.8	7/22	13.73(+1.0) 6組2着 準決勝進出
37	100mH	村上 瑞季	東大阪大学敬愛高校	13.58	100.9	7/22	13.62(+1.6) 2組3着 準決勝進出
38	400mH	向井 智香	名城大学	58.87	95.3	7/20	61.78 3組7着 落選
39	3000mSC	柴田 佑希	北九州市立高校	10:00.40	97.8	7/19	10:13.61 1組5着 決勝進出
40	3000mSC	溝口 友己歩	早稲田大学	10:08.92	97.3	7/19	10:25.66 2組10着 落選
41	10000mW	郡 菜々佳	九州共立大学	47:03.23	101.6		
42	砲丸投	山下 実花子	九州共立大学	16m19	90.4	7/20	14m63 B組5位 落選
43	円盤投	北口 穂花	日本大学	52m14	87.2	7/19	45m46 B組11位 落選
44	やり投	北口 穂花	日本大学	58m59	93.7	7/19	53m47 A組5位 決勝進出
45	やり投	北口 穂花	日本大学	61m38	91.5	7/19	56m16 B組1位 決勝進出

できなかった選手は、男子110mHの平松バブデンバと女子100mHの田中佑美の2名のみであった。このことは、決勝進出を懸けたレースでPBを出せばほぼ全員が8位入賞できたこと、すなわち日本のU20のレベルが世界水準に達していることを示している。また、女子短距離および跳躍種目は、入賞が期待される記録に1名しか達していないため派遣すら難しい状況であり、更に女子ハードルは100mHと400mHにフルエントリーしたものの入賞0と、昨年の世界ユース選手権同様に女子選手育成の課題が浮き彫りとなる結果であった。

2) 2020東京オリンピックに向けて

日本のお家芸となりつつある4×100mRは、U20アジア記録タイの39秒01で2位となった。アンカーの大嶋健太(日本大学)にバトンが渡った時点ではトップに立ち、ゴール前でかわされてしまったものの優勝したアメリカとの差は0秒08と非常に惜しいレースであった。悲願の金メダルは、次回のU20世界選手権、そして2020東京オリンピックへ持ち越しとなった。

男子110mHの古谷拓夢は、予選から好調を維持し、

決勝では13秒31のU20アジア新記録で見事に銅メダルを獲得した。110mHはシニアで世界との差が広がっている種目だが、13秒31は全てのカテゴリーで日本最速となるタイムである。強化育成部では、低いハードルでも13秒前半もしくは12秒台で走ることが重要であるというコンセプトを共有してきたことから、古谷の13秒31はそのコンセプトとマッチした形となり、今後のこの種目の活性化が期待される。

男子円盤投げの幸長慎一(四国大学)は、57m98の



今大会の代表選手団

日付	準決勝	日付	決勝
7/20	10.56(+0.2) 2組6着 落選	7/20	
7/20	10.43(-0.6) 1組4着 落選	7/20	
7/21	20.67(+1.5) 1組3着 決勝進出 PB	7/22	20.94(+1.2) 8位入賞
7/21	21.40(+2.0) 3組6着 落選	7/22	
7/21	46.69 2組2着 決勝進出 PB	7/22	46.69 7位入賞 PBタイ
7/21	46.41 1組4着 決勝進出 PB	7/22	47.15 8位入賞
		7/21	
		7/23	14:08.38 13位
		7/23	14:27.70 20位
		7/19	28:57.76 9位
		7/19	29:36.97 13位
7/20	13.41(+0.1) 1組1着 決勝進出	7/21	13.31(+0.2) 銅メダル PB (U20アジア新記録:99.1cm)
7/20	19.52(-0.1) 2組7着 落選	7/21	
7/22	50.84 3組3着 決勝進出 PB	7/23	50.99 5位入賞
7/22	50.95 1組2着 決勝進出	7/23	51.09 7位入賞
		7/24	8:53.71 15位
		7/23	41:42.48 9位
		7/23	43:14.19 25位
		7/22	2m21 6位入賞
		7/22	
		7/23	5m35 6位入賞
		7/20	
		7/20	7m31(-0.5) 10位
		7/21	
		7/19	
		7/24	58m50 8位入賞 PB
		7/24	
		7/23	64m04 14位
		7/23	
		7/23	39.01 銀メダル (U20アジア記録タイ)
		7/24	3:07.02 4位入賞
7/20		7/21	
7/21	58.55 3組3着 落選	7/22	
		7/20	9:01.16 8位入賞 PB
		7/20	9:10.20 9位
		7/23	15:39.66 8位入賞 PB
		7/23	15:49.63 12位
7/23	13.67(-0.1) 2組5着 落選	7/24	
7/23	13.46(+0.6) 1組4着 落選 PB	7/24	
7/21		7/22	
		7/22	10:35.71 14位
		7/22	
		7/19	46:19.49 8位入賞 PB
		7/20	
		7/21	
		7/20	54m89 6位入賞
		7/20	52m15 8位入賞

PBで予選を突破、決勝でも2投目に58m50の更なるPBで8位入賞を果たした。欧米人に比べ身体の小さい日本人にとって、この種目は世界大会に出場すらままならない状況であったが、幸長の8位入賞という快挙は、日本陸上界にとっては大きな前進である。

3) 他国の状況

各種目の3位、6位、8位入賞記録をみると、強化育成部が把握している過去7大会と比較して大きな差はないが、現地で観戦していると本大会は非常にレベルが高い印象を受けた。これには、優勝記録が跳び抜けていること（男子400m、男子砲丸投げ、男子やり投げなど）、また記録には表れていないが、中長距離種目におけるレース前半からの激しい揺さぶり、更にラスト1周でのスパートなど、アフリカ勢の強さを見せつけられたことが大きく影響しているであろう。短距離種目のアメリカ、ジャマイカ、中長距離種目のケニア、エチオピア、跳躍種目のキューバに加え、短距離のボツワナ、中長距離種目のウガンダ、エリトリア

の台頭が目を見つけた。

4) 科学委員会との連携

本大会には日本陸上競技連盟科学委員会から6名のスタッフが派遣され、日本人選手を中心にデータ収集を行った。また、可能な限り迅速にデータ分析していただき、コーチへのフィードバックを実施した。本大会のパフォーマンスへの影響を数値化することは難しいが、コーチ陣、また普段から映像を利用している一部の選手には好評であった。特に男子4×100mRでは、データ分析が銀メダル獲得に大きく貢献した。

5. 今後の課題

昨年の世界ユース選手権優勝者で今回のU20世界選手権優勝者になった選手は、全ての種目で僅か8名である。すなわち、世界的にみてもU18からU20への移行は大きな課題であり、同様にU20からシニアへの移行も一筋縄では行かないと考えられる。日本も2020東京オリンピックを機に、以前から課題とされているシニアへのスムーズな移行について具体的な解決策を提示すべきであろう。

その解決策の一つに、本大会ではシニアとの連携を考慮して前回大会同様コーチングスタッフにU23委員およびシニアの強化スタッフを加えた。これは、本大会の結果だけでなく、将来的なパフォーマンス向上を意図したものである。実際に、競技を終えた選手とスタッフが、宿舎やサブトラックで今後のトレーニングについて議論する姿がみられた。このような活動の積み重ねこそが、強化育成部として在り方であり、シニアへのスムーズな移行への一助となるであろう。

6. 最後に

本大会に出場した選手は、2020東京オリンピックの中核となる世代である。しかし、現状の技術、体力、戦術のままでは、シニアでの活躍は難しい。ジュニアからシニアへ移行する際には、失敗を恐れず、技術、体力、戦術のいずれかを極限にまで向上させ突き進む必要がある。一寸先は闇でも、勇気を持ってこだわり続けること、その先に東京での成功が待っている。

表5 第16回U20世界陸上競技選手権 日本選手団役員一覧

No.	役職	氏名	所属
1	監督	山崎 一彦	強化委員会 副委員長・強化育成部 部長
2	ヘッドコーチ	清水 禎宏	強化育成部 副部長・U19ディレクター
3	短距離コーチ	杉井 禎彦	強化育成部 副部長・短距離/ハードル主任
4	短距離コーチ	高橋 和裕	強化育成部 委員・短距離/ハードル(U19)
5	ハードルコーチ	千葉 佳裕	強化委員会 ハードル部 副部長
6	ハードルコーチ	富山 朝代	-
7	長距離コーチ	荻原 知紀	強化育成部 副部長・中長距離/競歩主任
8	長距離コーチ	両角 速	強化育成部 委員・中長距離/競歩(U23)
9	競歩コーチ	石田 大介	強化育成部 委員・中長距離/競歩(U19)
10	跳躍コーチ	伊藤 信之	強化育成部 副部長・跳躍主任
11	跳躍コーチ	福岡 博樹	強化育成部 委員・跳躍(U19)
12	跳躍コーチ	平井 勇氣	強化育成部 委員・跳躍(U19)
13	投擲コーチ	永井 啓太	強化育成部 委員・投擲(U19)
14	投擲コーチ	與名本 稔	強化委員会 投擲部 委員
15	投擲コーチ	疋田 晃久	-
16	ドクター	鎌田 浩史	医事委員会 委員
17	トレーナー	松尾信之介	医事委員会 トレーナー部 委員
18	トレーナー	宮澤 那緒	医事委員会 トレーナー部 委員
19	渉外	大橋 祐二	強化育成部 委員・U19幹事
20	渉外	河合江梨子	日本陸上競技連盟事務局



110mHで銅メダルを獲得した古谷拓夢（早稲田大）



男子4×100mリレーでは、アメリカとの接戦の末、銀メダルを獲得した

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2016大会報告

強化委員会幹事 吉川 三男

2016年夏、今年も北海道の地でホクレン・ディスタンスチャレンジが開催された。日本選手権の翌週での開催ということもあり、多くの選手はトラックでのスピード感を維持したままレースに臨むことができるため、各地で非常に盛り上がった大会となった。

第一戦は、恒例となった士別大会(7/3)。女子3000mでは、石澤ゆかり選手(エディオン)が9分32秒78で優勝。女子5000mでは、ミリアム・ムゾニ・ガチュンガ選手(ユタカ技研)が、前半から独走し15分30秒97で優勝。男子5000mは、高橋優太選手(DeNA)が13分44秒69で優勝。10000mは、後藤田健介選手(DeNA)がペースメーカーに合わせた走りをして、最後まで走り抜き、自己新記録となる28分36秒66で優勝。緑の森に囲まれた、士別市菅陸上競技場は天候にも恵まれ、メインとなるホクレン・ディスタンスチャレンジの地に地元の小中高生の出場する士別ディスタンスが開催され、未来のオリンピック選手を目指す子供たちの歓声が響いていた。

第二戦深川大会(7/7)では、女子1500mで、満枝まどか選手(第一生命グループ)が4分24秒43で優勝。地元ホクレンの岡田芽選手が僅差となる4分24秒62で2位となった。女子3000mでは、ペースメーカー不在の中、倉岡奈々選手(デンソー)が9分15秒42の好タイムで優勝。5000mでは、リオデジャネイロオリンピック10000m代表の設楽悠太選手(Honda)が2分45秒前後のイーブンペースで走り、唯一13分40秒を切る、13分38秒47で優勝。2016年英国・カーディフで開催された世界ハーフマラソン日本代表の大石港与選手(トヨタ自動車)は、13分44秒15にとどまった。また、5000mの高校記録更新を狙った、遠藤日向選手(学法石川)は、3000mあたりから遅れだし13分56秒17でゴール。男子10000mは、カレミ・ズク選手(トヨタ自動車九州)が28分22秒63、女子10000mは、パウリン・カムル選手(ルートイン)が31分56秒70で共に外国勢の選手が優勝した。今年も、日本記録更新には、深川牛1頭分がプレゼントされる予定だったが、今回も持ち越しになった。(残念)

第三戦は網走大会(7/11)。例年最終戦として盛り上がる網走大会であるが、蓋を開けてみると例年以上に盛り上がった大会となった。この大会から、韓日交流事業として、日本陸連中距離ブロック選抜選手と韓国代表選手がレースに加わり更に大会を盛り上げた。800mC組では、多くの韓国選手が参加し、優勝は富田三貴選手(西鉄)に譲ったが、2位にOH JAE WON選手(韓国)、3位にLEE MOO YONG選手(韓国)が入った。800mA組では、横田真人選手(富士通)がリオデジャネイロオリンピック参加標準記録突破を目指して、すでに同種目で代表となっている川元奨のペースメイクにより記録にチャレンジしたが、惜しくも記録突破はならなかった。優勝は、Jordan WILLIAMS選手(オーストラリア)で1分48秒28。リオデジャネイロオリンピックに向けた最終合宿を行っている日本陸連競歩ブロックの選手らも参加して、男女の5000m競歩が行われた。男子は小林快選手(ビックカメラ)が19分11秒94、女子は、道口愛選手(自衛隊体育学校)が21分46秒96でそれぞれ優勝した。日本選手権1500m優勝の木村友香選手(ユニバーサルエンターテインメント)も出場した女子5000m

は、横江理沙選手(豊田自動織機)が今季日本ランキング1位の15分18秒11で優勝。木村選手は、15分43秒57の6位だった。女子3000mSCでは、リオデジャネイロオリンピック参加標準記録突破を目指して、既に代表となっている日本選手権優勝の高見澤安珠選手(松山大)がペースメーカーとなり、同種目日本選手権2位の森智香子選手(積水化学)が積極的に記録を狙って走ったが、後半伸びず10分00秒23のタイムで優勝。10000mは、深川大会に続き設楽悠太選手(Honda)が日本人トップとなる27分48秒04で2位、3位市田孝選手(旭化成)27分53秒59、4位浅岡満憲選手(日立物流)が27分59秒72と日本人3名が27分台で好走した。

最終戦となった第四戦北見大会(7/14)。男子10000m競歩では、リオデジャネイロオリンピック20km競歩代表の高橋英輝選手(富士通)が39分29秒03で順当に優勝。女子は、網走大会5000m競歩で優勝した道口愛選手(自衛隊体育学校)を押さえ浅田千安芸選手(DNP西日本)が45分59秒12で優勝。女子800mは、2分06秒09で大森郁香選手(ロッテ)が優勝。女子3000mは、岡本春美選手(三井住友海上)が今季日本ランキング2位となる8分59秒96の好タイムで優勝。男子1500mでは、リオデジャネイロオリンピック5000m、10000mの2種目で代表に決定している大迫傑選手(Nike ORPJT)が日本記録更新ペースで1200mまで走ったが、ラスト300mが伸びず今季日本ランキング2位の3分40秒49(自己新記録)で優勝。2位の楠康成も3分41秒35で自己記録を更新した。男子10000mは、実業団選手を押さえ、神奈川大学の鈴木健吾選手が28分30秒16で優勝した。

2週間にわたって開催されたホクレン・ディスタンスチャレンジは、夏の北海道という走りやすいコンディションのもと、1,300人余りの選手達が出場し、その多くが自己新記録やシーズンベスト記録を更新(全体の22.9%)することができた。また、レースの間には、大会ごとに特色を出して頂き地域特産品のプレゼント抽選会や日本代表選手のサイン色紙のプレゼント、地元の中高生による表彰式インタビューなど大変盛り上がった大会となった。反面、出場者数は年々増加傾向にあり、プログラム編成における出場人数枠など運営面での難しさも出てきており、今後の検討課題かと考える。

最後になりましたが、ご協賛頂きましたホクレン様、主催である北海道陸上競技協会様、主管となる道北陸上競技協会様、空知陸上競技協会様、オホーツク陸上競技協会様はじめ、各自治体の皆様及び応援・サポート頂きました地域の皆様にお礼申し上げます。



“日清食品カップ”第32回全国小学生陸上競技交流大会 報告

普及育成委員会 熊原 誠一

日清食品カップ第32回全国小学生陸上競技交流大会は、47都道府県代表の小学生競技者1033名および指導者を集め、平成28年8月19日(金)より8月20日(土)までの2日間の日程で、横浜市 日産スタジアムを主会場とし、新横浜プリンスホテル・新横浜国際ホテルを選手村として、研修会・競技会を開催いたしました。日清食品カップ第32回全国小学生陸上競技交流大会の概略を下記の通り報告いたします。

第1日目(8月19日・金曜日)

～前日フリー練習会・指導者研修会・監督会議～

小学生の研修として、安藤百福発明記念館(愛称:カップヌードルミュージアム)の見学を例年通り実施し、競技会場到着選手団から順次前日フリー練習としました。主競技場で100m・80mH・跳躍、補助競技場でリレー、投てき練習場でジャベロボール投のフリー練習会を行いました。ボール投げにつきましては、昨年までのソフトボールを改め、楯円球のジャベロボールを使用して行いました。

11時30分から17時30分までの前日練習は台風9号の影響が心配されましたが、一時降雨があった程度ではほぼ予定通りに実施することが出来ました。また、以前実施していました都道府県ごとの集合写真撮影を今回復活させ、練習会中に第2曲走路インフィールドにて撮影しました。

練習会的一方、各選手団2名の指導者に参加していただき、15時30分から16時30分まで指導者研修会を実施いたしました。今回は陸連が

作成しました「タレントトランスファー」についての資料を基に繁田進普及育成委員会委員長が、ゲストアスリートの戸邊直人選手(安藤財団)による体験談を交えながら講演を行いました。

戸邊直人選手は、小学生・中学生時代は短距離・走幅跳・走高跳などいろいろな種目を練習していて、小学生の時は千葉県選考会で敗れ、全国大会には出場できなかったそうです。高校生になり走高跳を専門にしてから結果が出るようになったということでした。小学生・中学生の年代は、結果を意識し過ぎることなく、いろいろな運動経験しておくことが将来競技力を伸ばす基礎になるということでした。

指導者研修会後の16時45分より監督会議が行われ、競技運営上の諸注意や開会式などの諸連絡確認がされました。監督会議は17時30分に終了し、1日目の全日程を終えることが出来ました。

第2日目(8月20日・土曜日)

～開会式・指導者表彰・競技会・表彰式～

台風9号の影響で、朝から雨が降っていたため、開会式は雨天対応の要領で、スタンドに選手団が着席して行われました。

ロイヤルボックス内ステージにて、主催者を代表して公益財団法人日本陸上競技連盟 友永義治副会長による開会の挨拶、後援・協賛者を代表されて財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団理事長であり日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様よ

表1 決勝記録一覧表 (GR:大会新)

(男子)

月/日	種目	風速	1位		2位		3位		4位		
			氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	
8/20	5年男子	100m	-1.4	工藤 翔太(5) 北海道・恵庭TAC	13.28	稲名 功太郎(5) 静 岡・清水AC	13.31	平川 慧(5) 沖 縄・沖繩アンテロープ	13.38	竹下 純夢(5) 長 崎・豊城Jr	13.49
8/20	6年男子	100m	-2.6	山田 楓河(6) 北海道・美幌RC	12.34	佐藤 己朗(6) 福 島・福島ATC	12.44	山口 竜(6) 神奈川・KajJAC	12.68	海老根 優大(6) 千 葉・クレンサAC	12.71
8/20	男子	80mH	+0.1	吉田 拓海(6) 北海道・室蘭陸上少年	12.17	山本 貴義(6) 長 崎・長崎陸上クラブ	12.18	草野 拓登(6) 埼 玉・しらこぼと	12.22	長谷川 巧光(6) 千 葉・八街市二州小	12.34
8/20		走高跳		中島 一喜(6) 兵 庫・菅の台小	1.49	田川 永和(6) 東 京・清新JAC	1.48	杉本 要(6) 埼 玉・東つ子陸上	1.48	鬼塚 大翔(6) 福 岡・穂波JAC	1.48
8/20		走幅跳		井倉 大翔(6) 北海道・函館北美原陸	5.17(+1.5)	田中 瑛一(6) 愛 知・田原陸上クラブ	5.10(+0.3)	張替 拓実(6) 茨 城・水海道小	5.03(0.0)	萩原 諒(6) 兵 庫・勝原小	5.01(+0.5)
8/20		ジャベリックボール投		市村 友聖(6) 栃 木・長田小	57.34	星野 優太(6) 福 島・永盛	55.15	高橋 駿斗(6) 茨 城・わかしかクラブ	54.85	福田 虎太郎(6) 青 森・板柳北クラブ	54.58
8/20		4×100m		北海道・十勝陸上クラブ 笹刈 遥人(6) 清水 徹(6) 安藤 優汰(6) 櫻井 一夏(6)	49.65	大 阪・コスモAC 正井 遥希(6) 白石 征也(6) 中村 真之助(6) 志賀 大虎(6)	50.62	大 阪・AC一宮 佐藤 元哉(6) 池田 駿大(6) 中西 尊祐(6) 石田 大河(6)	50.84	新 潟・上越はね馬 佐々木 勇将(6) 大山 悠希(6) 丸山 詩温(6) 根津 諒大(6)	50.88

(女子)

月/日	種目	風速	1位		2位		3位		4位		
			氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	
8/20	5年女子	100m	+1.8	鍋島 あいる(5) 千 葉・野田Jr	13.47	大林 瑠音(5) 大 分・大分中央陸上	13.71	島村 曜莉(5) 沖 縄・あわせJRC	13.81	木村 美結(5) 静 岡・掛川陸上	13.88
8/20	6年女子	100m	0.0	世古 綾菜(6) 三 重・神社小	13.13	吉島 ゆい(6) 兵 庫・高砂小	13.13	関田 結穂(6) 東 京・武蔵野東AC	13.14	佐藤 杏(6) 秋 田・有浦クラブ	13.33
8/20	女子	80mH	+1.0	納村 琉愛(6) 北海道・深川陸上クラブ	12.37	中西 萌晴佳(6) 愛 知・TSM	12.59	中里 百葉(6) 栃 木・佐野SAC	12.62	藤原 かれん(6) 兵 庫・神崎小	12.66
8/20		走高跳		中尾 日香(6) 兵 庫・春日台小	1.41	梶屋 千春(6) 大 阪・ひらかたKSC	1.38	谷 青夏(6) 高 知・野市JAC	1.38	平賀 真帆(6) 岩 手・黒沢尻東TC	1.35
8/20		走幅跳		菅沼 瑠璃(6) 愛 知・田原陸上クラブ	4.83(-0.7)	山中 柚花(6) 高 知・土佐JAC	4.70(-1.1)	白土 莉紅(6) 千 葉・imakids	4.69(+0.3)	金城 七星(6) 沖 縄・読谷アスリート	4.66(-0.2)
8/20		ジャベリックボール投		千葉 春花(6) 岩 手・萩荘小	54.83	友利 晟月(6) 沖 縄・上田アスリート	49.92	中林 風馨(6) 富 山・黒部名水	49.34	奥山 琴未(6) 岡 山・平島小	48.58
8/20		4×100m		愛 知・岡崎JAC GR 藤井 鈴奈(6) 土居 幸愛(6) 藤江 美空(6) 北田 野々花(6)	51.21	東 京・スポーツマジック 沼波 愛和(6) 長島 憂季(6) 長島 布美子(6) 東 真衣(6)	52.41	岩 手・盛岡KTC 及川 美咲(6) 柗澤 里奈(6) 小倉 侑空(6) 筑後 なごみ(6)	52.63	長 野・坂城JAC 富山 萌衣(6) 宮原 凜成(6) 宮下 留花(6) 牧内 愛実(6)	53.19

友好上位記録一覧表

月/日	種目	風速	1位		2位		3位		4位		
			氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	
8/20	友好男子	100m		福田 哲稀(6) 北海道・十勝陸上クラブ	13.50(-1.5)	溝口 海音(6) 埼 玉・所沢走学校	13.82(-1.8)	山本 凱生(6) 奈 良・鴻ノ池SC	13.87(0.0)	松久 健太郎(6) 群 馬・伊勢崎クラブ	13.96(+0.1)
8/20	友好女子	100m		城山 あずさ(6) 愛 知・岡崎JAC	14.07(-1.3)	石井 嘉乃(6) 岡 山・岡山ジュニア	14.42(-0.8)	住田 知優(6) 静 岡・伊東陸上	14.51(-0.8)	森 美咲(6) 三 重・南勢陸上クラブ	14.53(+0.3)

りご挨拶をいただきました。引き続き、横浜市長祝辞を横浜市市民局スポーツ振興部長 大川敏彰様より代読していただきました。繁田進普及育成委員会委員長登壇後、選手宣誓は富山県代表の石田康一郎君と村家光咲さんにより行われました。最後に日清食品グループ陸上競技部の皆さんの紹介を行い、閉式通告により開会式を終えました。

開会式に引き続き、小学生陸上競技の普及発展に貢献されました指導者の皆さんに対して、「安藤百福記念章」の授与式が行われ、各都道府県陸上競技協会より推薦された46名の受賞者に対して、日本陸上競技連盟 友永義治副会長から表彰状、財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団理事長・日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様から記念盾が授与されました。

表彰終了後の9時30分に友好女子100mから競技が開始されました。台風の影響によるコンディションの悪い中、小学生アスリートの真剣な競技が展開され、女子4×100mリレーでは愛知県代表の岡崎JACが予選50秒99、決勝51秒21の大会新記録で優勝しました。

競技につきましては、Eテレで8月27日(土)13時から14時30分まで録画にて放映されました。また、競技結果につきましては、日本陸上競技連盟ホームページにてご覧下さい。

各種目の表彰式ではプレゼンターとして、佐藤悠志選手(日清食品グループ)、高平慎士選手(富士通)、塚原直貴選手(富士通)、戸邊直人選手(安藤財団)が入賞者に賞状・メダル・トロフィーを授与していただきました。

来年度第33回大会以降も、大会開催の基本理念(交流・研修を中心に考える)を踏まえながら、指導者の皆様のご意見等を検討し、改善させてまいりたいと考えております。今後とも本大会に対するご理解ならびにご協力をお願い申し上げます。

最後に、ご後援いただきましたスポーツ庁、横浜市、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団、公益財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団、読売新聞社、ご協賛いただきました日清食品ホールディングス株式会社、ご協力いただきましたアシックスジャパン株式会社、株式会社ニシ・スポーツ、ミズノ株式会社をはじめ多くの関係各団体・各位に対し、心から感謝申し上げます、第32回全国小学生陸上競技交流大会の報告といたします。

謝辞

第32回全国小学生陸上競技交流大会の開催に当たり、主管いただきました神奈川陸上競技協会役員・競技審判員の皆様、補助員として協力いただきました東京学芸大学・東京女子体育大学・日本女子体育大学・桐蔭横浜大学の皆様に対し、心から厚くお礼申し上げます。



5位		6位		7位		8位	
氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録
中谷 郁斗(5) 栃木・TOJ	13.50	寺内 亨志郎(5) 京都・京小陸	13.52	ベイトマン礼門(5) 東京・府中AC	13.70	原田 秀憲(5) 青森・弘前アスリート	13.75
安保 祐希(6)	12.74	四反田 翔汰(6)	12.74	井元 楓(6)	12.76	吉次 悠真(6)	12.76
兵 庫・兵庫大開小		静岡・ST函南		大 分・滝尾陸上		群馬・太田市陸協	
布施 幸祐(6)	12.48	藤本 竜飛(6)	12.50	澤井 克樹(6)	12.56	竹内 元春(6)	12.73
新潟・柏崎T&F		福岡・志摩アスリート		石 川・津幡ジュニア		鳥 取・布勢TC	
川口 遥己(6)	1.45	富山 晋伍(6)	1.45	西長 嵩良(6)		山 形・小国陸上	1.40
愛 知・JAC武豊		茨 城・七郷小		冨山 正治郎(6)		千 葉・銚子クラブ	
数原 由大(6)	4.98(+0.5)	吉田 康晟(6)	4.92(-0.1)	山下 壮太(6)	4.83(-0.5)	川上 亮磨(6)	4.80(+0.1)
岡山・草間台クラブ		徳 島・阿南JAC		広 島・竹尋AC		鹿児島・高尾野陸上	
又吉 優輔(6)	53.87	嶋田 翔太(6)	53.47	荒木 康生(6)	53.44	福谷 綾斗(6)	53.21
沖 縄・北丘アスリート		千 葉・旭市立中央小		岡 山・常盤AC		愛 媛・垣生JAC	
山口・山口陸スポ	51.30	奈良・鴻ノ池SC	52.12	香 川・中野原小	52.85	埼 玉・所沢走学校	55.34
小西 然(6)		安田 琢(6)		石川 優真(6)		埼玉 拓実(6)	
松田 祥善(6)		山本 大翔(6)		石井 晴樹(6)		千田 和毅(6)	
石田 侑大(6)		田原 歩陸(6)		岡下 裕介(6)		鷺澤 力大(6)	
森野 太陽(6)		山和 大希(6)		篠原 佳樹(6)		名取 航輝(6)	

5位		6位		7位		8位	
氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録
宗野 華楓(5)	13.92	宇方 和(5)	14.01	村松 苺華(5)	14.04	新井 志麻(5)	14.18
兵 庫・城陽小		岩 手・黒沢尻東TC		山 梨・NAC		埼玉・鴻巣市陸協	
星川 七海(6)	13.36	藏重 みう(6)	13.36	笹山 愛琉(6)	13.48	多田 愛望(6)	13.48
宮 崎・延岡ジュニア		山 口・光スポ少		山 形・寒・西JAC		京 都・京小陸	
永井 真凜(6)	12.76	梅村 胡春(6)	12.85	山崎 咲和(6)	12.86	池嶋 咲乃(6)	13.25
静岡・千代田AC		千 葉・茂原市豊岡小		高 知・宿毛JAC		埼 玉・新座陸協	
村瀬 好音(6)		京 都・桂東ランナーズ	1.35	大森 まうい(5)		千 葉・木更津市二小	1.30
高橋 亜珠(6)		山 形・尾花沢小		平谷 紗菜(6)		長 野・朝日SUN	
				横尾 藍可(6)		群馬・勢多クラブ	
				高宮 美季(6)		埼 玉・新座陸協	
				鈴木 彩瑛(6)		茨 城・絹西小	
				熊倉 千夏(6)		栃 木・佐野SAC	
野口実央梨(6)	4.61(+0.2)	瀧田 美幸(6)	4.60(+0.1)	片野坂唯月(6)	4.60(-0.2)	越水なつみ(6)	4.53(-0.1)
北海道・旭川神居東		山 口・ふくっ子陸上		鹿児島・高尾野陸上		奈 良・三陸陸上クラブ	
森 花楓(6)	48.39	片平 くるみ(6)	47.64	倉田 紗優加(6)	46.48	吉富 奈美(6)	45.63
東京・品川学園		福 島・大森小		長 野・南箕輪小		兵 庫・豊富小	
岡山・岡山ジュニア	53.63	静岡・伊東陸上	53.88	沖 縄・沖繩アンテローブ	54.29	三 重・南勢陸上クラブ	54.51
草野 菜々子(6)		鈴木 愛豆花(6)		大城 耀夏(6)		荒木 杏(6)	
西江 真葉(6)		磯川 優(6)		小橋川 晃和(6)		木下 奈々花(6)	
金光 沙月(6)		渡邊 かなえ(6)		伊佐 叶望(6)		福田 碧(6)	
末澤 里奈子(6)		大川 ゆらり(6)		金城 舞緒(6)		稲石 風羽(6)	

5位		6位		7位		8位	
氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録
大町 悠真(6)	14.16(-1.5)	釜田 峻羽(6)	14.21(-1.8)	加藤 大智(6)	熊 本・KURS		14.35(0.0)
岡山・津山ジュニア		愛 知・AC一宮		野口 達哉(5)	新 潟・上越はね馬		14.35(+0.1)
津市菜 里奈(6)	14.60(+0.3)	久保 明朱咲(6)	14.76(-0.8)	廣田 優芽(6)		14.79(-1.3)	門脇 史華(6)
栃木・TOJ		京 都・京小陸		千 葉・SAA			島 根・松江陸上教室
							高橋 夢来(6)
							神奈川・横浜AC

過剰な鉄分は身体に害です！

日本陸連「アスリートの貧血対処7か条」

貧血とは血液中で酸素を運ぶヘモグロビン濃度が低い状態をいい、パフォーマンスの低下に直結する病気です。貧血のなかで、アスリートにもっとも多いのは鉄欠乏性貧血で、これは食事、休養やトレーニング強度・量に気を配ることで予防することができます。

極度な食事制限やオーバーワークも鉄欠乏性貧血を招きますので、指導者はアスリートの状態を把握した上で指導する必要があります。

一方で、鉄分サプリメントの過量使用や鉄剤の静脈内注射が日常的に行われている事実があります。鉄分が体内に多く入りすぎると、肝臓、心臓などの重要な臓器に蓄積し、体に悪影響をもたらします。

日本陸上競技連盟はアスリートの健康確保のため、貧血の予防・早期発見・適切な治療をめざし、「アスリートの貧血対処7か条」を作成いたしました。アスリートのみならず、指導者、保護者の皆さんにも活用していただきたいと思えます。



日本陸連「アスリートの貧血対処7か条」

- 1 食事で適切に鉄分を摂取**

質・量ともにしっかりとした食事で、1日あたり15～18mgの鉄分を摂れます。普段から鉄分の多い食品を積極的に食べましょう。
- 2 鉄分の摂りすぎに注意**

鉄分を摂りすぎると、体に害になることがあります。1日あたりの鉄分の耐容上限量は男性50mg、女性40mgです。鉄分サプリメントを摂りすぎると、この量を超えますので、注意しましょう。
- 3 定期的な血液検査で状態を確認**

年に3～4回は血液検査を受けて、自分のヘモグロビン、鉄、フェリチンの値を知っておきましょう。フェリチンは体に蓄えられた鉄分量を反映するたんぱく質で、鉄欠乏状態で最も早く低下する敏感な指標です。ヘモグロビン値は最後に低下しますので、貧血では体の鉄分量は極度に減っています。
- 4 疲れやすい、動けないなどの症状は医師に相談**

疲れやすくパフォーマンスが低下する時は、鉄欠乏状態や貧血かもしれません。早めに医師に相談しましょう。
- 5 貧血の治療は医師と共に**

鉄欠乏性貧血の治療の基本は飲み薬です。医師に処方してもらいます。ヘモグロビン値が正常に回復してから3ヶ月間は続けましょう。
- 6 治療とともに原因を検索**

鉄欠乏性貧血には原因が必ずあります。治療を受けるだけでなく、消化器系、婦人科系、腎泌尿器系などの検査を受けましょう。
- 7 安易な鉄剤注射は体調悪化の元**

鉄剤注射は投与量が多くなりがちで、鉄が肝臓、心臓、脾臓、甲状腺、内分泌臓器や中枢神経などに沈着し、機能障害を起こすことがあります。体調不良とかパフォーマンスが思い通りでない、といった理由で、鉄剤注射を受けることはもってのほかです。鉄剤投与が注射でなければならないのは、貧血が重症かつ緊急の場合や鉄剤の内服ができない場合です。

JAAF

公益財団法人日本陸上競技連盟

「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」 ～2020年へ向けた若手アスリートの海外挑戦支援～

2016年秋期募集のお知らせ

日本陸連と公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団は2020年へ向けた若手アスリートの海外挑戦を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」の秋期募集の実施を決定しました。

概要	<p>本プロジェクトのコンセプトは、「武者修行」です。</p> <p>己の力を世界最高レベルの中で腕試しし、海外での経験を培い、更なる競技力の向上、心身の育成を図ることを目的に、次の2つの活動を支援します。</p> <p>なお、支援内容は、海外における滞在費、旅費、大会出場料やアカデミー参加料等とします。</p>
支援内容	<p>【海外長期活動支援】・海外に活動拠点をおき、大会やアカデミー等の活動に参加</p> <p>【海外短期活動支援】・1～3ヶ月程度、海外での大会参戦や、アカデミー等の活動に参加</p> <p>※原則、海外の受け入れ先のコーチから指導を受けるものとし、日本からのコーチ派遣費用は支援の対象外とします。</p>
支援対象期間	<p>【長期活動支援】2017年4月1日～2018年3月31日</p> <p>【短期活動支援】2016年12月1日～2017年4月30日のうち1ヶ月～3ヶ月程度</p>
応募資格	<p>以下の5つの条件に全てに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none">1. 満16歳以上（応募時）の男女個人2. 将来、オリンピックや世界選手権等の国際大会でメダル獲得を志す者3. 日本国籍を有する者4. 実業団に所属していない者5. 安藤財団の広報活動に協力ができる者
募集スケジュール	<p>応募期間 8月24日（水）～10月31日（月）</p> <ol style="list-style-type: none">① 1次エントリー 8月24日（水）～10月31日（月） 本エントリーフォームよりお申し込みください。② 2次エントリー 申請書の提出 〆切10月31日（月） 1次エントリー後、本プロジェクト事務局より申請書をメールにてお送りします。事前に予算を算出し、本プロジェクト事務局にメールにて提出ください。③ 本プロジェクト選考委員会による選考（面接） 11月末 ※最終選考は面談を行います。

▼詳細は安藤財団グローバルチャレンジプロジェクトHPをご覧ください。

<http://www.ando-zaidan.jp/ando-global-challenge/>

陸上競技者および審判・役員の紫外線カットグラス着用のすすめ

医事委員会副委員長 向井直樹

太陽光には、目に見える光（可視光線）のほかに、目に見えない赤外線と紫外線が含まれています。紫外線とは地表に届く光の中で、最も波長の短いもので、生物に様々な作用をおよぼすことがわかっています。紫外線の量は、①北半球では南に行く（緯度が低くなる）ほど強い、②1年のうちでは春から初秋にかけて強い（4～9月に1年間のおよそ70～80%）、③1日のうちでは正午をはさむ数時間が強い（夏の午前10時～午後2時に1日のおよそ60%、冬と同じ時間帯では1日の照射量の70～75%）、④平地よりも高所のほうが強い、ことがわかっています。

その作用にはビタミンDの生成など有益なものもありますが、わたしたちに害になる作用もあります。よく知られている急性の日焼けのほか、慢性のシミやしわ、皮膚がんをはじめとする腫瘍などの皮膚への作用は多くの人の注意を引くようになり、サンスクリーンなどの日焼け止めの使用も普及してきています。

しかし、眼への影響には無頓着な人が多いようです。

1. 紫外線による眼へ悪影響

波長が280ナノメートル以下の光は眼球表面の角膜ですべて吸収されます。これより長い波長の紫外線も、大半は角膜で吸収されますが、角膜を通過した紫外線のほとんどはレンズの役割を担う水晶体で吸収されます。多くの紫外線が角膜や水晶体で吸収されるため、紫外線による眼への影響もその部分に多発します。それらの障害としては、急性の紫外線角膜炎と慢性の翼状片、白内障が知られています。

1) 紫外線角膜炎

紫外線角膜炎は強い紫外線を受けたときに生じる急性の角膜炎症で、結膜の充血、異物感、流涙がみられ、ひどくなると強い眼痛を生じます。典型例は「雪目」で、昼間に紫外線に曝露した場合、夜から深夜あるいは翌朝にかけて炎症反応が起こります。角膜の充血や目がゴロゴロするといった症状から、涙や目やにが出たりします。また角膜が傷ついた状態であるために、目が痛い、まぶしさを強く感じます。大部分は24～48時間で自然に治るのが普通です。

2) 翼状片

眼球結膜から翼状に角膜に侵入する線維性の増殖組織で、放置して瞳孔にまで達すると視力障害を来します。戸外での活動が多い人に多発することが知られていて、小児期からの紫外線の極めて長期間の目への曝露によって発症することが明らかになってきました。視力障害を来するような大きなものに対しては手術で切除を要することもあります。再発する可能性が2～7%と報告されています。

3) 白内障

白内障は眼のなかでレンズの役割している水晶体が濁るため、網膜まで光が届かなくなり見え方の質が低下する病気です。ひどくなると失明に至ることもあります。白内障の最大の危険因子は加齢ですが、日本人に多いタイプの白内障は紫外線への曝露も危険因子の一つとされています。

一度濁ってしまった水晶体は元に戻すことはできず、進

行して視力障害が強くなった場合には水晶体を摘出して眼内レンズを埋め込む手術が必要なこともあります。

2. 紫外線をカットして、悪影響を予防できます

朝や夕方時間帯は太陽の位置が低く、紫外線が直接、目に入ってきます。陽射しの高い時間帯より、午前9時ごろや午後2時から4時ごろに眼に入る紫外線が高い値を示すことがわかっています。朝と夕に特に眼の保護が必要です。サングラスや紫外線カットグラス（眼鏡）を適切に使用すると、眼への曝露を90%カットすることが出来ます。最近では普通のメガネにも紫外線カットのレンズが多く使われるようになってきています。サングラスを使用する場合は紫外線防止効果のはっきり示されたものを選びましょう。

しかし、眼に照射される太陽光は正面方向からの光だけではありません。上方、側方、下方さらには後方からの光も眼を直接、間接的に照射しています。レンズサイズの小さな眼鏡や顔の骨格に合わない眼鏡では、正面以外からの紫外線に対しては十分な防止効果を期待できません。正面だけでなく、横と斜め上が非常に大事です。カーブがしっかりしているものを選びましょう。強い太陽光の下で目を護るためには、顔にフィットした、ある程度の大きさを持つ眼鏡をかけ、帽子をかぶるとよいでしょう。

なお、色の濃いサングラスをかけると、眼に入る光の量が少なくなるため瞳孔が普段より大きく開きます。そのため、紫外線カットの不十分なレンズでは、かえってたくさん紫外線が眼の中へ侵入し、目に危険な場合がありますので注意が必要です。

3. 陸上競技者および審判・役員は紫外線カットグラスを着用しましょう

アイコンタクトができない、学生らしくない、などとのことで、競技者や審判・競技役員があまり色の濃いサングラスを掛けるのを歓迎しない向きもあるかもしれません。反射するような光るものや極端に色の濃いものを除き、陸上競技者、審判・役員は積極的に紫外線カットグラスを着用しましょう。

競技団体での取り決めがある場合には、大会総務に申し出るなどして適切に対応してください。中波長域紫外線は雲を透過するため、日光の直射がなくても危険度は変わりません。曇りの日にも、紫外線カットグラスの着用をお勧めします。

参考文献

財団法人日本陸上競技連盟 2008年度全国競技運営責任者会議報告書
紫外線と目の障害 佐々木洋
<http://www.okinawa-gankaikai.jp/UserFiles/File/topics/sigaisan.pdf>
産経新聞 2007年6月6日
東京陸協会報 No.106 2016年4月1日
夏の陽射しと目の保護 宮崎茂雄 JIM 10 662-663, 2000
紫外線 環境保健マニュアル 2015、2015年3月改訂版 環境省
<https://www.env.go.jp/chemi/matsigaisan2015/full.pdf>

2016数字で見る陸上競技Vol.2 都道府県公認審判員数

事務局

シリーズ「2016数字で見る陸上競技」の連載第2弾。

Vol.2では、各都道府県陸上競技協会における2015年度公認審判員の登録人数を掲載します。

2015年12月31日現在

NO	陸協名	S級		A級		B級		小計		合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	
1	北海道	166	10	224	31	751	24	1,141	65	1,206
2	青森	72	3	97	4	373	80	542	87	629
3	岩手	82	1	109	19	386	83	577	103	680
4	宮城	91	6	162	27	391	110	644	143	787
5	秋田	96	0	119	8	528	90	743	98	841
6	山形	89	0	151	14	466	104	706	118	824
7	福島	112	4	266	26	275	79	653	109	762
8	茨城	75	3	140	18	336	73	551	94	645
9	栃木	56	2	87	5	192	54	335	61	396
10	群馬	81	1	101	5	576	95	758	101	859
11	埼玉	83	0	324	40	335	69	742	109	851
12	千葉	96	4	224	19	728	143	1,048	166	1,214
13	東京	421	37	380	90	412	140	1,213	267	1,480
14	神奈川	214	1	271	24	984	206	1,469	231	1,700
15	山梨	96	3	142	27	302	83	540	113	653
16	新潟	72	0	166	8	789	130	1,027	138	1,165
17	富山	92	3	149	13	280	56	521	72	593
18	石川	81	4	126	7	325	77	532	88	620
19	福井	37	1	81	6	261	55	379	62	441
20	長野	110	0	124	7	498	107	732	114	846
21	静岡	192	6	254	37	566	154	1,012	197	1,209
22	愛知	113	5	148	10	616	181	877	196	1,073
23	岐阜	62	3	137	13	314	74	513	90	603
24	三重	41	1	90	9	318	101	449	111	560
25	滋賀	78	1	226	23	312	117	616	141	757
26	京都	104	5	163	16	741	281	1,008	302	1,310
27	大阪	153	5	322	61	725	239	1,200	305	1,505
28	兵庫	82	2	276	15	630	92	988	109	1,097
29	奈良	4	0	51	3	132	35	187	38	225
30	和歌山	19	0	112	9	272	74	403	83	486
31	鳥取	52	5	152	17	90	17	294	39	333
32	島根	72	4	145	23	436	79	653	106	759
33	岡山	54	3	217	42	254	89	525	134	659
34	広島	158	7	224	23	457	112	839	142	981
35	山口	103	2	166	20	336	57	605	79	684
36	徳島	19	2	80	8	155	72	254	82	336
37	香川	30	0	122	6	141	37	293	43	336
38	愛媛	44	2	149	11	271	100	464	113	577
39	高知	36	2	97	13	115	51	248	66	314
40	福岡	184	8	282	35	744	264	1,210	307	1,517
41	佐賀	53	1	103	11	99	37	255	49	304
42	長崎	46	3	101	7	350	66	497	76	573
43	熊本	79	5	208	35	198	48	485	88	573
44	大分	89	2	131	29	261	89	481	120	601
45	宮崎	36	4	90	12	366	80	492	96	588
46	鹿児島	70	2	174	24	406	110	650	136	786
47	沖縄	47	2	76	11	81	34	204	47	251
	合計	4,242	165	7,739	921	18,574	4,548	30,555	5,634	36,189

大会観戦ガイド

第71回国民体育大会陸上競技会

秋のスポーツの祭典・国体を岩手県北上市・北上総合運動公園北上陸上競技場で開催します！ 各都道府県を代表する中学生から一般選手までの活躍を応援して下さい！

▼期日：10月7日（金）～10月11日（火）

▼会場：北上総合運動公園北上陸上競技場

岩手県北上市相去町高前檀27-36

▼アクセス：

- ・東北自動車道「北上金ヶ崎I.C.」より車で約5分
- ・北上駅よりバスで約20分（北上翔南高校・日香下線、片道290円）
- ・北上駅よりタクシーで約10分

▼種目：【成年男子】100m、400m、800m、110mH、400mH、10000m競歩、走高跳、走幅跳、円盤投、やり投

【少年男子A】100m、400m、5000m、400mH、棒高跳、走幅跳、ハンマー投、やり投

【少年男子B】100m、3000m、走幅跳、砲丸投

【少年男子共通】800m、110mH、5000m競歩、走高跳、三段跳、円盤投

【成年少年男子共通】4×100mリレー

【成年女子】100m、400m、800m、5000m、100mH、5000m競歩、走高跳、棒高跳、三段跳、ハンマー投、やり投

【少年女子A】100m、400m、3000m、400mH、走幅跳

【少年女子B】100m、800m、100mH、走幅跳、砲丸投

【少年女子共通】1500m、棒高跳、三段跳、円盤投、やり投

【成年少年女子共通】4×100mリレー

▼テレビ放映予定

NHK Eテレ

10月7日（金）16：00～17：00

10月8日（土）16：00～17：00



少年男子共通円盤投でジュニア日本新を樹立した幸長慎一選手

▼問い合わせ先：

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会

北上市実行委員会事務局

TEL：0197-72-8288 FAX：0197-77-3591

大会公式サイト

<http://www.iwate2016.jp/kokutai>

JOCジュニアオリンピックカップ 日本ジュニア・ユース陸上競技大会 第32回日本ジュニア陸上競技選手権大会 第10回日本ユース陸上競技選手権大会

日本ジュニア・ユース選手権を愛知・パロマ瑞穂スタジアムで開催します！若きアスリート達の熱戦を是非、会場で！

▼日時：10月21日（金）～23日（日）

▼場所：パロマ瑞穂スタジアム

愛知県名古屋市長瑞穂区山下通5-1

▼アクセス：地下鉄桜通線「瑞穂運動場西」駅下車徒歩10分
地下鉄名城線「瑞穂運動場東」駅下車徒歩5分

▼種目：

【ジュニアの部】

<男子 14種目>

100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

<女子 14種目>

100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

【ユースの部】

<男子 15種目>

100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、4×100mリレー

<女子 15種目>

100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、4×100mリレー

▼テレビ放映予定

東海テレビ・



昨年度の大会より（ジュニア女子やり投で高校新をマークした北口榛花選手）

BSフジ (放送予定)

▼問い合わせ先:

一般財団法人愛知陸上競技協会

TEL: 052-249-4363 FAX: 052-249-4366

日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1380/>

第47回ジュニアオリンピック 陸上競技大会

中学生アスリートの夢の舞台、ジュニアオリンピック!

リレー日本一を決定する日本選手権リレーも同時開催!

ぜひ日産スタジアムに足を運んで下さい!

▼日時: 10月28日(金)~10月30日(日)

▼場所: 日産スタジアム

神奈川県横浜市港北区小机町3300

▼アクセス: JR新横浜駅から徒歩15分、
地下鉄新横浜駅から徒歩12分、
JR小机駅から徒歩7分

▼種目

<男子>

区分A: 100m、200m、3000m、110mJH、走高跳、砲丸投

区分B: 100m、1500m、110mH、走幅跳、砲丸投

区分C: 100m、1500m、走幅跳

区分A・B・C共通: 円盤投、ジャベリックスロー、4×100mリレー

<女子>

区分A: 100m、200m、3000m、100mYH、走高跳、砲丸投

区分B: 100m、1500m、100mH、走幅跳、砲丸投

区分C: 100m、800m、走幅跳

区分A・B・C共通: 円盤投、ジャベリックスロー、4×100mリレー

*年齢区分: 2016年4月1日を基準として満年齢によって、
下記のとおり3区分する

A. 14歳以上~15歳未満 (2001(平成13)年4月2日生~2002(平成14)年4月1日生)



昨年度の大会より (ABC共通4×100mリレーで男女アベック優勝を果たした北海道と福島千里選手)

B. 13歳以上~14歳未満 (2002(平成14)年4月2日生~2003(平成15)年4月1日生)

C. 12歳以上~13歳未満 (2003(平成15)年4月2日生~2004(平成16)年4月1日生)

▼入場料: 1,000円 (1日)

※65歳以上・高校生以下無料

※当日券のみ

▼問合せ先: 神奈川陸上競技協会

TEL: 045-210-9660 / FAX: 045-210-9667

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1382/>

第100回日本陸上競技選手権 リレー競技大会

リレー日本一を決定する日本選手権リレー!

ジュニアオリンピックも同時開催! ぜひ日産スタジアムに足を運んで下さい!

▼日時: 10月28日(金)~10月30日(日)

▼場所: 日産スタジアム

神奈川県横浜市港北区小机町3300

▼アクセス: JR新横浜駅から徒歩15分、
地下鉄新横浜駅から徒歩12分、
JR小机駅から徒歩7分

▼種目

【日本選手権リレー】

<男子 2種目>

4×100mリレー、4×400mリレー

<女子 2種目>

4×100mリレー、4×400mリレー

▼入場料: 1,000円 (1日)

※65歳以上・高校生以下無料

※当日券のみ

▼問合せ先: 神奈川陸上競技協会

TEL: 045-210-9660 / FAX: 045-210-9667

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1381/>



昨年度の大会より (ジュニア日本新で女子4×100mリレーで優勝を果たした東京高)

JAAF SHIGA 一般財団法人滋賀陸上競技協会

〒520-3251 滋賀県湖南市朝国607 坂一郎方
TEL.0748-72-2056 FAX.077-527-3925
<http://www.biwako.ne.jp/~srkshiga/>

滋賀県では平成36年に国民体育大会が開催されます。本年度、新規事業として第1回滋賀小学生陸上チャレンジフェスタ（シガリク）を企画しています。2巡目滋賀国体に向けてのタレント発掘を目指し滋賀の陸上競技を活性化させていきたいと考えています。

- 日時 平成28年11月5日（土）9：30～16：00
会場 東近江市・布引運動公園陸上競技場（布引グリーンスタジアム）
内容 1）小学生アスリート教室
2）小学生3種競技（100m・走幅跳・ジャベリックボール投）
3）協会記録会（公認）県内各カテゴリー上位選手が出場（種目限定）

小学5・6年生150名を3つのグループに分け、県のトップ選手による記録会を観戦し滋賀の陸上競技の普及を目指します。小学生のクラブチームの活動も活性化してきています。さらに原石の発掘をしていきたいと考えています。小学生から一般の選手までの継続した流れを作り国体に向かって取り組んでいきたいと思えます。

（文責：常務理事 馬場豊）

JAAF KYOTO 一般財団法人京都陸上競技協会

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番2
TEL.075-322-5500 FAX.075-322-5501
<http://www.krk26.jp/>

京都マラソン2017は2月19日に開催されます。実行委員会事務局を中心に鋭意準備が進められています。コースの一部が変更され、ランナーにとってより走りやすいコース設定が可能となりました。下鴨中通が下鴨本通に変更となり、走路幅が大きく拡張されます。宝ヶ池通部分が廃止され北山通コースの東へ延伸することで、折り返し箇所が減少となります。ヘア駅伝の定員が200組400人と倍増されます。これは、1917年に京都の三条大橋から東京上野を目指した「東海道駅伝徒歩競走」が開催されてから100年となる「駅伝100年」を記念したものです。

京都陸協としても「駅伝100年記念事業」として、記念式典などを計画しています。駅伝発祥から100年を迎える2017年、新たな歴史が京都から始まります。

（文責：広報部長 相模浩史）

JAAF OSAKA 一般財団人大阪陸上競技協会

〒546-0034 大阪府東住吉区長居公園1-1
大阪市長居陸上競技場内
TEL.06-6697-8899 FAX.06-6697-8766
<http://www.oaaa.jp/>

全日本実業団対抗ヤンマースタジアム長居にて開催

リオ・オリンピックを闘ったアスリートが多数参加する第64回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会は9月23日から25日までヤンマースタジアム長居において開催されました。これまで傘下連盟地域を持ち回り開催されていた同大会は今年度から3年間、大阪・長居で開催されることとなります。今後、2020東京オリンピックに向け実業団所属チーム選手の活躍が期待されますが、大阪陸協としても選手が観衆と一体となって記録を更新できるよう良質な競技環境の提供に全力で努めていくこととしています。

OSAKA2020夢プログラムは2年目に!!

OSAKA2020夢プログラムは、世界陸上、オリンピックに臨むアスリートの強化・育成プログラムです。昨年冬季はオーストラリア遠征や沖縄合宿を通じ、メダリスト育成し経験豊富なやり投のベテロ・ビロン氏（スウェーデン）やハードル競技のシャロン・ハンナン氏（オーストラリア）をコーチにお招きし技術指導を受けました。今年度は昨年の経験をもとにNTC合宿をはじめ、ヨーロッパやアメリカへの遠征も検討しています。指定競技者は日本選手権において上位に食い込む活躍を見せており、今後の成長が楽しみです。昨年10月にはゼネラルマネジャー室をヤンマースタジアム長居に開設しました。今後とも選手の所属学校やクラブ、日本陸連や実業団チームとも連携しつつ強化事業を進めてまいります。引き続き本プログラムへのご支援ご協力をお願いいたします。詳しくは大阪陸協ホームページをご覧ください。

（文責：大阪陸協 讃岐）

JAAF HYOGO 一般財団法人兵庫陸上競技協会

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号
神戸市生涯学習支援センター内
TEL.078-231-1771 FAX.078-231-1772
<http://www.haaa.jp/index2.html>

猛暑の日々が続きますが、皆さま方にはますますご清栄のことと存じます。

7月の兵庫選手権・8月の全国総体・全国中学・近畿選手権も終了し、目下選手たちは秋の競技会・駅伝に向けた練習に励んでいます。強化の活動として、10月に岩手で開催される国民体育大会のための強化合宿も終了したところ です。

本県にゆかりのある選手（田村朋也 住友電工・荻田大樹 ミズノ）2名がリオ・オリンピック代表選手に選出され、それぞれのパフォーマンスを見せてくれました。

さて、本協会普及委員会では、小学生陸上競技春季記録会終了後に、一般未登録者向けに、公認競技場で、挑戦記録会を実施しました。当日受付で種目は男女100m・1500m 2種目限定で実施しました。参加者100m男子21名女子4名1500m男子18名女子3名と思ったよりたくさんの方が参加になり大変盛り上がりしました。参加者の声を聞くに記録会に参加した息子の記録がどの程度か、また、自分の体力がどの程度か知りたかった。と言う声があり、中には往年の名選手も参加してくれ、大変楽しかったと言う声もありました。11月6日（日）に2回目の実施を予定しています。

また、第6回神戸マラソンが11月20日（日）に開催されます。この大会から、クォータマラソンを取りやめフルマラソンだけにしました。約87000人の申込があり、抽選の結果当選者20000人にさせていただきました。選手の皆様が快適に走れるように準備しておりますのでよろしくお願いたします。

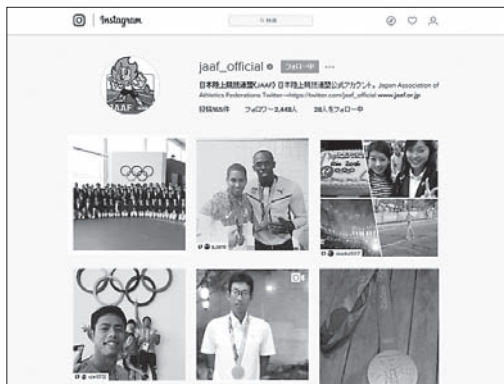
（文責：総務委員長 宮永正俊）

事務局からのお知らせ

◆◆日本陸連公式Instagram始めました！◆◆

日本陸連では6月より公式Instagramを始めました。
日本代表選手の写真や大会時の裏側写真など今後も
どんどん投稿していきます。
是非下記にアクセスして、フォローしてください！

https://www.instagram.com/jaaf_official/



◆◆ロードレースシーズンが始まります！◆◆

11月から、冬のロードレースシーズンが始まります！
日本陸上競技連盟主催の競技会は、来夏の第16回世界陸上競技選手権大会（2017 / ロンドン）の代表選手選考競技会となっている8競技会。各競技会の詳細な情報は大会WEBサイトににて。

- ・第30回記念北海道マラソン2016 2016年8月28日（日）開催
<http://hokkaido-marathon.com/2016/>
- ・第2回さいたま国際マラソン大会 2016年11月13日（日）開催
<http://saitama-international-marathon.jp/>
- ・第70回福岡国際マラソン選手権大会 2016年12月4日（日）開催
<http://www.fukuoka-marathon.com/>
- ・第36回大阪国際女子マラソン大会 2017年1月29日（日）開催
<http://www.osaka-marathon.jp/>
- ・第66回別府大分毎日マラソン大会 2017年2月5日（日）開催
<http://www.betsudai.com/>
- ・東京マラソン2017 2017年2月26日（日）開催
<http://www.marathon.tokyo/>
- ・第72回びわ湖毎日マラソン大会 2017年3月5日（日）開催
<http://www.lakebiwa-marathon.com/>
- ・名古屋ウィメンズマラソン2017 2017年3月12日（日）開催
<http://womens-marathon.nagoya/>

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩（陸連会長）
友永 義治（陸連副会長）
八木 雅夫（陸連副会長）
尾縣 貢（陸連専務理事）
麻場 一徳（陸連強化委員長）
風間 明（陸連事務局長）
牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
高橋 祐哉
小川ちあき

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>